

平成19年度 学校経営計画（中間評価）

石川県立野々市明倫高等学校

(2007.10.19現在)

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評 価 の 観 点	達成度判断基準	判 定 基 準	備 考
1 授業改善に努め、「わかる授業」、「達成感を味わえる授業」を実践し、学力の向上を図る。	研究授業を制度化する。	教務課 各教科	前年度20回以上実施され概ね良好であった。やや単発的でテーマ設定の統一性に乏しいきらいがある。	【努力指標】 研究授業を計画的に実施し、充実する。	研究授業の年間実施回数が A 30回以上 B 20回以上 C 10回以上 D 10回未満	CまたはDの場合は改善策を検討 D	1月下旬実施
	生徒による授業評価を活用し、授業改善に役立てる。	教務課 各教科	昨年行った2回の授業評価で、各教諭・教科の特徴、問題点を客観的に把握でき、授業改善の方向性が見えてきた。	【満足度指標】(生徒) わかりやすい授業により学習意欲が高まり、積極的に授業に参加することができる。	授業評価の基準で総合評価が「非常に良好」と「良好」である教諭の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	教科別の評価で、CまたはDの場合はその教科で改善策を検討 B	7月、12月実施
	学習習慣の定着を図る。	教務課	生徒の家庭学習時間の平均が1時間強、と低迷している。	【成果指標】 十分な学習時間が確保され、継続的な学習が定着している。	各クラスの平均家庭学習時間が、1・2年生で2時間以上、3年生で3時間以上確保している生徒が、 A 50%以上 B 40%以上 C 30%以上 D 30%未満	各クラスの評価をA4点、B3点、C2点、D1点とし、その平均が2.5未満ならば改善策を検討 B	7月下旬、12月上旬実施
	国公立大学への志望者数を増やし、合格率を高める。	進路指導課 各教科 各学年	平日及び夏季補習・土曜補習が必ずしも学力の充実に結びついていない。19年度センター試験の得点が全国平均を上回る生徒は11人であった。国公立大学合格者数が、ここ数年50人前後で推移している。	【努力指標】 参加した生徒が充実感を味わえるような夏季補習の内容を工夫する。 【成果指標】 大学入試センター試験の得点が全国平均点以上の人数を増加させる。 【成果指標】 国公立大学の合格者数を増加させる。	夏季補習の内容に満足している生徒が A 受講生徒数の70%以上 B 受講生徒数の60%以上 C 受講生徒数の50%以上 D 受講生徒数の50%未満 センター試験の得点の平均点偏差値50以上の生徒が A 20人以上 B 15人以上 C 10人以上 D 10人未満 国公 D 40人未満立大学合格者数が A 60人以上 B 50人以上 C 40人以上	CまたはDの場合は改善策を検討 A CまたはDの場合は改善策を検討 CまたはDの場合は改善策を検討	8月上旬実施 1月下旬実施 3月下旬実施

	思考力・表現力の育成のため、3年間を通して小論文指導を行う。	各学年	これまでの、講演や大学・企業見学といった受動的な活動だけでは、思考力の育成につながらない。	【成果指標】 人類の諸課題について積極的、多面的に考えさせ、文章にまとめる力を身につける。	小論文テストの判定が標準以上の生徒が、 A 90%以上 B 75%以上 C 50%以上 D 50%未満	CまたはDの場合は改善策を検討	7月、12月実施	
	授業において情報機器を効果的に活用する。	情報室 各教科	情報機器を授業で十分に活用して教育効果を図っている状況に至っていない。	【努力指標】 各教科で授業を進める際、情報機器を導入することを奨励する。	A 授業で情報機器を月1回程度使用した B 授業で情報機器を学期に1回程度使用した C 授業で情報機器を年に1回程度使用した D 授業で情報機器を使用しなかった (※情報機器に視聴覚機器も含む)	A4点、B3点、C2点、D1点とし、全職員の平均が1.5未満の場合は改善策を検討 1.8	校内「IT講習会」の継続・充実 8月中旬・11月下旬 実施	
2	面談を通して生徒一人ひとりの個性にあった進路設計をうながし、全職員がそれぞれの立場から支援する。	定期的な進路情報の提供に努め、進路ガイダンスを充実させる。	進路指導課 各学年	従来からの進路ガイダンスでは、十分に効果が上がらない傾向があり工夫を要する。	【努力指標】 生徒の意欲を引き出す学年別、進路別ガイダンスを実施する。	学年別進路ガイダンスを A 3回以上実施 B 2回実施 C 1回実施 D 実施せず	各学年の評価をA4点、B3点、C2点、D1点とし、平均が2.5未満の場合は改善策を検討 A	10月中旬実施
					【満足度指標】(生徒) 自らの進路を真剣に考え、具体的な進路設計に取り組むことができる。	自分の進路について A 常に真剣に考えることができた B 概ね真剣に考えることができた C 場合によって真剣に考えることができた D いつも真剣に考えることができなかった	A4点、B3点、C2点、D1点とし、平均が2.5未満の場合は改善策を検討	12月上旬実施
					【満足度指標】(保護者) 進路情報の提供や緻密な個別指導など、適切な進路指導が行われ、成果が確認できる。	生徒に対する進路指導が A 適切で成果もあがっている B 適切であるが、成果は十分とはいえない C 十分行われているとは言えず、成果も不十分である D どんな指導が行われているのか分からない	各クラスの評価をA4点、B3点、C2点、D1点とし、平均が2.0未満の場合は改善策を検討	12月下旬実施
					生活記録「Just do it」を活用して個人面談を充実させ、的確な進路指導を行う。	各学年 進路指導課	昨年度に引き続き今年度も重点目標に掲げ、進路指導、生徒指導の根幹に位置づけたい。	【努力指標】 個人面談の回数を維持し内容の一層の充実を図る。

		先輩・教職員による講話を通して、自らの人生設計について考えさせる。	進路指導課 生徒会課 1・2学年	新たな実施形態等の工夫が求められている。	【満足度指標】(生徒) 自分の人生設計について真摯に考える機会となる。	先輩・教職員との交流により視野を広げ、人生について考えるようになった生徒が A ほとんどである B 70%程度である C 約半数である D 一部である	各クラスでA4点、B3点、C2点、D1点とし、平均が2.0未満の場合は改善策を検討 2.1	12月上旬実施
		生徒の良好な人間関係作りを支援する。	相談室 生徒指導課 各学年	人間関係に敏感で傷つく生徒が増えている。	【努力指標】 人間関係を育む体験活動(「グループエンカウンター」)を実施できるクラス担任を育てる。	A 相談室員でなくクラス担任が実施 B 3学年とも複数回実施 C 1年生は2回、他学年は1回だけ実施 D 1年生は2回、他は2・3年のどちらかが実施 (BCDはクラス担任実施に向けての相談室員による模範活動)	CまたはDの場合は改善策を検討	3月下旬実施
				顕著ないじめへと発展する前に対応すべき状況がある。	【努力指標】 担任の情報交換やアンケートの実施により、いじめの有無を常に把握する。	いじめが A ない B 1件あった(ある) C 2件あった(ある) D 3件以上あった(ある)	Aでなければ改善策を検討 A	7月と3月に実態調査
3	学校行事等あらゆる機会を利用して、生徒が自信満々な自主的活動ができるよう工夫をこらす。	バランスのとれた体力の向上を図る	保健体育科	全国・県の平均と比較して、握力と上体起こしがやや劣る。	【満足度指標】 体を鍛えることの大切さを知り、体力が向上していく充実感を味わう。	新体力テスト(握力・上体起こし)で、1回目よりも向上した生徒が A 75%以上 B 50%以上 C 25%以上 D 25%未満	CまたはDの場合は改善策を検討	4～5月実施 12月実施
		部活動の加入をうながし、学校全体の活性化を図る。	生徒会課 各学年	入学当初は部活動加入率は100%だが、学年が進行するにつれて漸減する傾向がある。	【努力指標】 部活動加入率の向上を図り、活力ある学校づくりをめざす。	部活動加入率が A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である	CまたはDの場合は改善策を検討 B	加入状況調査 5月上旬実施
					【満足度指標】(生徒) 部活動に意義を見出し、参加していることで充実した学校生活を送っている。	A 大変意欲的に活動している B ある程度意欲的に活動している C 何となく参加している D 参加する気がない	A4点、B3点、C2点、D1点とし、平均が2.5未満の場合は改善策を検討 3.0	部活動に対する意識調査 6月上旬実施

ボランティア活動への自発的な参加を促進する。	各学年 生徒会課	個人や部活動単位で実施しているが、全体的な広まりに欠ける。	【成果評価】 ボランティア活動に積極的に参加することを奨励・啓発する。	ボランティア活動について、 A 教職員が共に行動した B 機会を見つけて啓発した C 年1回回は啓発の機会を設けた D 奨励も啓発もしなかった	A4点、B3点、C2点、D1点とし、平均が2.5未満の場合は改善策を検討 2.5	2月下旬実施
全員一斉清掃の徹底により、美化意識を高める。	保健環境課 各学年	開学以来、全員一斉清掃に取り組んでいるが、十分とは言えない。	【努力指標】 監督責任箇所の指導及び点検が確実に行われている。	A 常に監督箇所に出向き十分に指導、点検している B 監督箇所に出向き点検しているが、生徒の指導は十分ではない C 時々、監督箇所に出向き点検している D 指導も点検も十分していない	A4点、B3点、C2点、D1点とし、平均が2.5未満の場合は改善策を検討 3.6	指導・点検状況調査 12月上旬実施
危機管理意識を高め、事故の防止と発生時の対応に万全を期す。	保健環境課 総務課 生徒指導課	教員の意識は喚起されつつあるが、緊急時の対応訓練が十分ではない。	【成果指標】 不慮の事故防止のための研修・実地訓練がなされている。	危機管理に関する校内教職員研修・訓練を A 年間5回以上行う B 年間3～4回行う C 年間1～2回行う D 全く行わない	CまたはDの場合は改善策を検討	12月上旬実施
生徒の読書を促進する。	図書課	各種企画・掲示物を通じて読書の促進に努めているが、図書の利用状況は横ばいである。	【成果指標】 生徒が積極的に図書を利用している。	全学年の月間平均貸出冊数が A 220冊以上である B 200冊以上である C 180冊以上である D 180冊未満である	CまたはDの場合は改善策を検討 B	7月と3月に実態調査
保護者に、PTA主催行事や学校行事に積極的に参加してもらう。	総務課 各学年 生徒会課	保護者の学校に対する理解と信頼をより深めてもらうために必要である。	【努力指標】 学校の教育活動についての理解と協力を得るため、機会あるごとに参加してもらう。 PTAと生徒がともに活動する機会を設定する。	総会、学年別懇談会、公開授業、教育ウィークにおける保護者の延べ参加率 A 50%以上 B 40%以上 C 30%以上 D 30%未満	CまたはDの場合は改善策を検討	11月中旬実施
				「朝の挨拶運動」における保護者の参加率 A 50%以上 B 40%以上 C 30%以上 D 30%未満	CまたはDの場合は改善策を検討	12月上旬実施